

# スズムシを飼ってみよう！



## ●容器

1. 底面15cm×20cm以上、深さ15cm以上のプラスチック製水槽など。

## ●土

2. 深さ3cm程度。

3. 栄養分のない細かな土。赤土をふるったもの。できればビニール袋に入れて電子レンジで殺虫・殺菌しておく。来年孵化させるためには、産卵直前に新しい土に入れ替えるとよい。

4. 隠れ場所や脱皮する場所として、炭を置いてやるとよい。

5. 適当な湿気を保つために、スポイトで、あるいは容器の縁を伝わらせて水をやる。霧吹きは使わない。

## ●置き場所

6. 直射日光の当たらない室内。

## ●餌（植物性）

7. キュウリ、ナスやスイカの皮（白い部分）などを串に刺して与える。水分の多いものは腐りやすい。

## ●餌（動物性）

8. 削り節、チーズ、市販の“スズムシのエサ”などを小さな浅い器（瓶のふた、王冠など）に入れて与える。大好物はウナギの頭やドジョウなども電子レンジで加熱して串に刺したもの。

9. 古くなった餌をそのまま放置しておくくとダニなどが発生するので注意。

## ●脱皮

10. 成虫になるまでに何回か脱皮する。抜け殻は自分で食べてしまう。串に刺した餌などに後ろ足を引っ掛け、ぶら下がって脱皮する。脱皮のための場所も必要。

## ●雌雄<sup>しゅう</sup>

11. 成虫になって、硬い平らな羽があるのが雄、産卵管があるのが雌。

## ●産卵

12. 雄が鳴く頃に、雌が地中に産卵する。卵は長さ2mm程の白色。

## ●越冬

13. 産卵が終わると、まず雄が、そして雌が死ぬ。死骸は順次食べられてしまうのでほとんど残らない。

14. すべてが死んでしまったら、死骸などを取り除く。

15. 土に適当な湿り気を保つために、時々、スポイトで、あるいは容器の縁を伝わらせて水を与える。霧吹きを用いても良い。乾燥しにくくするために、地表をビニールで覆っても良い。

16. 置き場所は押し入れなどの室内、または雨の当たらない屋外。直射日光は避ける。

## ●孵化

17. 翌年の6月頃に地中から、体長2mmほどの幼虫（スズムシの格好をしている）が孵化する。

18. 孵化の時期は、気温（置き場所）によって異なる。ビニールで覆った場合には、予め取り除いておくこと。

## ●その他

19. スズムシのいる室内や傍での殺虫剤や蚊取り線香の使用は厳禁。

20. スズムシを直接つかんだりしない。小さな紙切れ2枚で、両側からすくうように乗せる。

自然は私たちの財産！



連絡先 〒986-0855 石巻市大街道東 3-4-11

田代清行 携帯 080-3148-8990